

## 野北ハーフラウンド～野北の洗礼～

【報告者】A・I

【日時】2018年5月4日

【天候】晴・強風

【参加者】A・K、A・I

### 《コースタイム》

駐車場 8:30 - ラウンド開始 8:56 - ラウンド終了 - 駐車場 14:55

### 《 報 告 》

先日アルパイン基礎講習を受けたので、忘れないうちに実践を、と今日は野北ラウンドデビューを果たす。サーファー達の縦列駐車と、二人のサーファーをすりぬけ、いざ砂浜へ！その時点で気づけば良かった。今日は、いい波が来ていると・・・。

最初の懸垂下降。普段ビレイデバイスはスマートを使用しているのですが、アルパイン用のスマートも試してみたいと思っていた。降りるのに多少力があるが、慣れればなんとかなりそう。下で待っていた相方からは「けっこう石を落としていたよ」と注意される。自分では気づいていなかったもので、次からはもっと周囲を確認する余裕を持たなきゃと反省。

なんとか順調？に進んで行くと、若干海に迫り出した岩場を抜ける箇所に遭遇。岩の裏側が見えないので、どういうルートで行けば良いのかイメージできない。

「波が引いたタイミングで行け」というアドバイスをもらったが、ごうごうと押し寄せる波を見ると足がすくむ。「念のためコンテで行こうか」と言われ、沖に流されたら、死ぬな・・・と丁度思っていたところだったので、迷わず首を縦に振る。

この判断は正しかった。どこに足を置いたら良いか迷っているうちに、引き波に足をさらわれた。結構派手に海に落ちたのだが、ザイルが繋がっていたおかげで、すぐに相方が引き上げてくれた。

落水で動揺した心を落ち着けるため、ちょっと休憩することに。安全だと思った場所でモグモグタイムをとっていたら、ザックが波にさらわれそうになった。もはや安全な場所などない。

波はどんどん高くなる。見渡せば、ここまで？と思う場所まで全部海水で濡れている。自然とスピードが上がる。

最後の懸垂。生前の M 下さんが発案したという二本の木をポイントに支点をとる。さらに波は高くなる。手前の大きな岩にぶつかった波が砕けて、崖の上にいるはずの私の頭上に降りかかる。下降ポイントは茶色く濁った波が渦巻く。

先に降りた相方の、「ウォーワー」という叫び声。今度こそ、マジで死ぬな・・・。登り上がって藪漕ぎの道も模索したが、様子を確認しに行ってくれた相方からは「降りて来い」の合図。

ザイルが繋がっているから沖に流されることは無いし、ザイルの先っぽは相方がしっかり握ってくれている。降りたらすぐに逃げられる。プラス要素を頭の中で繰り返し、いざ荒れ狂う海へ。と思っていたら、案外私が降りる頃には波が落ち着いていて、全く濡れることなく岸へ。後で聞くと、相方が降りた時は、5回ほど胸の高さまで波がきたらしい。

次回再挑戦する時は潮の干満を確認して行こう！と固く心に誓った、初めての、しょっぱい野北ラウンドであった。

